

【新聞活用学習】全校研究／国語科・社会科・総合的な学習の時間
新聞に親しもう、新聞を読もう・書こう～学年に応じた活動を見つけよう～

指定校 2 年次 下諏訪町立下諏訪南小学校 大江 照彦

（１）本年度の NIE 活動の概要

昨年度、授業で新聞を使ってみることで、子どもたちが記事の書き方を身に付けたり、ニュースを読み取る力を身に付けたりもした。新聞を使ってみることで、漢字の読み方や記事の読み取りの難しさへの教師の支援や、授業の目標にあった効果的な活用方法の研究等、これからより明らかにしていきたい事柄が見えてきた。

そこで本年度は、教育活動でのさらなる新聞活用を模索し、これからの授業づくりの一つの方策にしたいと考えた。各学年における年間学習計画に新聞が活用できる単元や活動を追記することで、どの先生でも NIE に取り組みやすい土壌を作っていった。

（２）本年度の NIE 活動の取り組み状況（４月時点）

本校は全校児童 590 人、23 学級（内特別支援学級 5）である。今年度赴任された学級担任の先生は 5 名であった。研究部会を立ち上げ、各学年の教員と実践を持ち寄り検討することで、活動できることを考え合うことにした。また、部会の教員がそれぞれの学年の教員と情報を共有することで、全校体制で NIE に取り組んでいけるようにした。

（３）NIE 活動のねらい（育てたい力）

昨年度の研究から、低学年は「新聞に親しむ」、中学年は「新聞を読む」、高学年は「新聞を書く」をそれぞれ活動の中心に据え、子どもたちにとって新聞が身近なツールとして活用できるようになることを目標に活動していく。

（４）全校での取り組み

【新聞コーナーの設置】

昨年度に引き続き、児童昇降口に 9 月から 4 ヶ月間、8 紙を展示した。また、今年度は毎週日曜日に発行される長野日報の子ども新聞を保管しておき、1 月に展示した。

特に子ども新聞は写真も大きく、記事にふりがながついていることもあり、読む子どもが多かったように思われる。



昇降口の新聞コーナー

【バックナンバーの保存】

新首相誕生など、どの新聞も扱うような大きなできごとを、授業の進度に合わせて後日扱うようなときに、主に活用できた。

また、同時にたくさんの学級が一人 1 日分の新聞が必要なときにも、足りなくなることなく活用できた。



バックナンバーの保管

【新聞委員会によるクイズ掲示】

委員会活動の一つとして、実際の新聞記事を元にしたクイズを作成し、昇降口に掲示した。問題があることで、あまり新聞コーナーを見ない子どもも、興味をもって新聞記事に目を通す姿が見られた。



新聞委員会によるクイズ

【新聞委員会による行事新聞】

委員会活動の一つとして、全校行事や学年行事について、インタビューなどを盛り込んだ紹介新聞を作った。特に学年行事の新聞については、自分たちの今後の活動を知る一助になり、興味深く読んでいる子が多くいた。

新聞委員会による
行事の紹介



（５）公開授業などの活動内容

【実践授業①】 ８月２５日（水） ３校時 ３年１組（男子１９名 女子１５名 計３４名）

- １ 単元名：『SDGｓのために自分達ができる事を考えよう』（総合的な学習の時間）
- ２ 主眼：新聞でSDGｓ関連の記事を見つけた子どもたちが、その記事を紹介し、考えた活動を友達と伝え合う事を通して、これから学級で取り組んでいく活動を決め出す事ができる。
 - ・前時まで：SDGｓの１７のゴールについて調べ、インターネットや書籍を使い、自分たちができる活動を考えてきた。さらに、新聞記事からSDGｓ関連の記事を探し出した。
 - ・つける力：キーワードを元に、必要な情報を探し出す力
- ３ 展開：（１）前時の活動を振り返り、本時の学習問題「見つけた記事や考えた活動を友達と紹介し合おう」を確認する。（全体）（５分）
（２）お互いが選んだ記事を紹介し合い、やりたい活動を絞り込む。
（グループ学習）（１５分）
（３）絞り込んだ活動を発表し合い、お互いの活動について質疑応答を行う。
（全体）（２０分）
（４）自分がやってみたいと思った活動を学習カードに記入する。（個人）（５分）
- ４ 反省：事前に記事を選んでおいたので、すぐにグループでの絞り込み活動に入ることができた。ただ、SDGｓのどのゴールに関わるかは話し合えるものの、そこに紹介

されている活動はどれも3年生には難しく、それをヒントに自分達ができる活動を考えるのもとても難しそうだった。

色々な活動を考えられるよう生活班でグループ活動を行ったが、ゴールごとにグループにすれば、もう少し活動を相談しやすかったのかも知れない。

5 研究会で示唆されたこと

(成果)

- ・興味をもって活動し、自分自身でしっかりと新聞記事を選択できていた。
- ・最初は消極的だった子どもたちが、話し合いを重ねるにつれて自分の意見を話しはじめることができ、班としての発表内容を決め出せていた。
- ・SDGsについて自分なりに理解し、何とか行動に移そうとしている様子が伝わってきた。
- ・自分の意見をしっかりと発信できている子、お互いの考えを大切にする子、ゴールまでの道筋がよく見通せている子がおり、こういった子が話し合いの柱になっていた。

(課題)

- ・新聞記事を選ぶときはみんなとてもワクワク活動していたと思うが、記事内容まで深く読み取ることが3年生には少し難しかったのではないかな。
- ・話し合いの仕方のきまり・約束の提示が先にあるとやりやすかったのではないかな。
- ・SDGs ゴールが同じ人同士でグループ編成をしてもよかったのではないかな。
- ・それぞれ考えを持てているものの、発表となると声の大きさなど相手にきちんと届けられずもったいなかった。
- ・ゴールが17もあるので、多くの視点で考える機会がある反面、共通の課題としては捉えにくかったのではないかな。教師側で今後の活動につなげやすいゴールいくつかにしぼっていくと、話し合いや活動が展開しやすくなるのではないかな。

【実践授業②】 8月25日(水) 2校時 6年1組(男子17名 女子17名 計34名)

1 単元名：『昔の諏訪にタイムスリップ』（総合的な学習の時間）

2 主眼： 諏訪地域の歴史や伝統・産業について調べたことを新聞にまとめる場面で、調べた情報から必要なことを整理してまとめたり、見出しやレイアウトを工夫したりすることができる。

- ・前時まで：学区や諏訪地域に残る歴史を感じる場所や伝統的な行事・産業に興味をもち、調べ学習をしてきた。
- ・つける力：①記事の内容が簡単に伝わる見出しを考えることができる。
②伝えたい事柄の順位付けをし、記事の構成を工夫することができる。
③集めた情報を整理し、読み手に伝わりやすい文に要約することができる。

- 3 展開：（１）見出しの作り方を見せ、本時の活動を確認する。（10 分）
（２）記事構成シートから、使いたい言葉を選んだり、言葉の言い方を調べたりしながら、より伝わる記事の見出しを考える。（30 分）
- ・キーワード選び：個人
 - ・見出し作り：ペア
- ※出来上がったものを黒板に貼っていき、選んだ言葉や言い回しの工夫を共有する。
- （３）見出し作りを通して感じたことや、工夫したことを振り返る。（5 分）
- 4 反省：・見出しに重点を置いて学習を進めた。本時では、言葉の言い回しについて、最初の段階で触れたため、子どもたちの頭の中に「言葉の変換」が印象付いてしまった。使いたいワードを組み立てるということをしないまま言葉の検索をする姿があった。思考の順序を逆にさせてしまうような、「言葉の変換」を強調しない方が良かった。
- ・記事構成シートは、伝えたい内容を整理することができ、大切にしたい言葉を選び出せたため、見出し作りには効果があった。

5 研究会で示唆されたこと

（成果）

- ・K 児、S 児、T 児のグループを見て。K 児は「読む人が気になるような見出し」を作りたいかったが、T 児は「内容が分かるのが見出しだから」と意見を出し合い、互いの見出しへの価値観の話し合いになっていた。見出しの価値に迫るものだったなと感じた。
- ・ペアと相談しながら見出し作りに取り組んでいた。タブレットも有効に活用しながら学習を深めている姿が見られた。ペアの組み方も配慮がされていて、子どもたちが安心して授業に参加できていたと思う。
- ・類語を探して言葉ボックスを埋める子と、それを聞いて見出しのアイディアをメモする子と上手に分担して取り組んでいた。見出し作りのコツを確認する場面で、活発に発言する子もいれば、隣の子と確認し合う子もいて、全員の意識が向いていた。
- ・記事構成シートを書き、その中で使いたい言葉に○をすることで、子どもたちが見出しを作りやすくなっていたと感じた。よい新聞を作るためには手順を踏んで取り組ませることが大切だと感じた。
- ・迷っている子が少なく、短く魅力的な見出しになるように意欲的に取り組んでいた。
- ・本時にやることが分かり、時間いっぱい活動をしている様子が見られた。一人一人シートがあり、それがあったからスムーズに作業が進められていたと思う。
- ・グループによって差はあったが、活発に意見を交換していた。ペアで活動していたが、中には個人の方が活動しやすいペアもあったように見えた。
- ・S 児。「温泉」というテーマで考えていた。がんが治る、リフレッシュ、などふ

さわしい言葉をたくさん見つけられていた。最後、タイトルの言葉をつけるのが難しいという感想から、すごくよく考えていたのではと想像した。

- ・ 短期間に学習シートに調べたことを記入し、よく準備されていた。見出しをどのように作ればよいかを先生が例を挙げ、やり方が分かり、おしゃれで自分らしい見出しを考えようと1時間真剣に取り組んでいた。

(課題)

- ・ 言い換えの方に意識が回り、調べてばかりな状態になってしまった。言葉ボックスの活用があまりなされなかった。「御柱」を変換しようとしている児童もあり、言い換えについてうまく伝わっていなかった。構成シートの活用も難しかった。構成シートが書けていないと活用しづらい。
- ・ コピーメカというサイトがあり、AI がキーワードからキャッチフレーズを考えてくれる。静岡新聞がNIEに力を入れており、参考にできる。また、調べるサイトを絞ってみてはどうか。例えば連想類語辞典というサイトを使うと簡単に類語が出てくる。
- ・ 見出しは大切だと感じた。子どもたちはどんな意味を感じて取り組んでいたのか。なんのために作っていたのか。新聞を見せる相手は誰だったのか。例えば「万治」は下諏訪の人にはわかる言葉かもしれないが、それ以外の人は分からない言葉。どういう観点で言葉を選び、見出しにしようとしたのか。恐らくこの観点、読者意識もNIE教育でつける大切な力かと思った。
- ・ K児、S児、T児のグループを見て。見出しは内容が分かるように書くというポイントがあったから、K児が主張していた「スーパー魚」を小見出しにしてみればいいのか。読者を引き付けるための見出しを工夫して考えることは、伝えたい内容をより自分の中で深く理解し、再構築することに繋がり、新聞に限らず国語で場面や段落に見出しをつける授業にしても読み取る力に繋がるのではと思った。
- ・ D児を見て。御柱のHPを見てタイトルを探していた。なかなか目当てが見つからず苦戦していた。義務教育が終わったときに「新聞が読める、意味が分かる」が一つのゴールではないか。今後取り組む際の目標にしてみてもいい。
- ・ キーワードの「魅力的に」が難しいと考えたので、まず見出しを作ってから言葉の書き方にした方が作り方としてはスムーズかと思った。
- ・ K児は、隣のH児とペアだったが、特に二人で関わることなく、それぞれがタブレットで語彙を探してタブレットを交換して使っていた。一人ずつタブレットを与え、自分で考えてからペアの活動にしてもよかった。

【その他の学級の活動】

- ・ 2年

(国語) 『カタカナ・漢字さがし』

主眼：子ども新聞から、習ったカタカナ・漢字を探す場面で、今までに習ったカタカナ・漢字を探して、読むだけでなく正しく書けるようになるようにする気持ちをもつことができる。

・ 3 年

(国語) 『秋のくらし』

主眼：新聞から秋らしさを感じる記事を選び、そこに使われている言葉を紹介し合う。

(社会) 『火事からくらしを守る』

主眼：消防署に見学に行って分かったことを、5W1Hが分かるように新聞にまとめる。

・ 4 年

(国語) 『お気に入り新聞を作ろう』

主眼：子ども新聞から気になる記事を見つける場面で、どのようなことが書かれているか読み取り、周りの人にその記事の面白いところや興味深いところを伝えることができる。

・ 5 年

(国語) 『生活の中で詩を楽しもう』

主眼：比喩や反復などの表現の工夫に気づき、詩を楽しむことができる。

交流している方へプレゼントするために好きな詩をタブレットに書いて印刷し、詩集を作る。

・ 6 年

(教科名) 『鳥獣戯画』

主眼：現在も引き継がれている日本の文化を新聞にまとめる場面で、伝えたいことを明確にし、効果的に伝わるような構成を考え、文章全体の筋道を整えることができる。

・ 特別支援学級 (自情障)

(総合的な学習) 『ライチョウを守るために』

主眼：ライチョウを絶滅から守るために、私たちにできることは何だろう

学習活動：①ライチョウの記事を見て、ライチョウの特徴や減少しているよう
すを知る。

②ライチョウの絶滅を防ぐために工夫していることを知る。

③ライチョウを絶滅から守るために自分ができることを考える。

・ 特別支援学級 (自情障)

(国語) 3 年 「ことわざ・故事成語」

4 年 「伝わる言葉 慣用句」

主眼：信濃毎日新聞のコラム「こと映え」のカードを作り、ことわざや故事成語、慣用句を身近なものに感じ、その意味を写真を通して学ぶ。

学習活動：①自分の気に入ったカードを選びその意味を考える。

②なぜそのカードを選んだか、その理由を話す。

③自分の選んだカードを使い実際に文章を作ってみる。

・ 通級教室 (ことばの教室)

(自立活動) 4・5 年 「新聞を読んでみよう」

主眼：記事の語句調べをしたり感想をまとめたりすることを通して、知ってい

る言葉を増やし新聞を読めた実感を味わうことができる。

学習活動：① こども新聞の一面から興味のある記事を選ぶ

② ドラえもん辞書を使ってわからない言葉を調べ、iPad のメモ（新聞記事の原文を貼り付けてある）に上書きしていった記事をわかりやすい文にしていく。

③ 記事に書いてあったことと感想を学習カードに書く。

（６）児童の反応

- ・ 始めは新聞を読むことに抵抗があった。しかし、「自分の興味がある記事」を読むことにはとても意欲的であった。また、友だちから紹介された記事にも興味を持ち、読み込む姿が見られた。
- ・ 始めは、「えー」と言う心配そうな声が聞かれたが、何度も何度も繰り返して行うことで嬉しそうに「新聞の授業楽しい」「やったー」という声がたくさん聞かれるようになり、「次はいつかな」と、心待ちにしている姿が見られるようになった。
- ・ 「こと映え」には可愛い動物の写真が付いているので、「可愛い」と言って喜んでカードを見ていた。学習の中に遊びが感じられて楽しく学習ができた。
- ・ 「五十歩百歩」を学習した後に同じような事例が起き、子どもに納得いく説明ができた。
- ・ 通級児童には記事全文は読み切れないので、見出しとリード文だけ扱った。「わかるかなあ…」と最初は不安そうだったが、語句調べをし、自分がわかる文にカスタマイズされたものを読んで「意味がわかった。寄付をしてくれた人はすごい」とすんなり感想まで書けていた。
- ・ 記事の内容が大体理解できるような見出しにするにはどうしたらよいかを考えながら、新聞づくりをしていた。図や写真の配置にもこだわり、読みやすい新聞を目指していた。

（７）成果と課題

- 授業者が新聞を活用した授業を何回もデザインしていくと、子どもたちにとっても新聞活用が課題解決の一つの方法になってきた。
- 「新聞の活用＝楽しい活動」という雰囲気につなげることができた。
- 新聞のつくりを学習する内に、子どもの書く新聞も見やすく分かりやすいものになってきた。
- ２年間の研究で、活用事例が増えてはきたものの、まだ絶対数が少ない。今後も継続して活用例を職員間で共有していきたい。
- 新聞を書くことには慣れてきた子どもたちであるが、作文等の他の書く活動については、読み手が分かりやすい文章にはまだなっていない。新聞づくりのノウハウを作文の場面にもつなげていくことを研究していきたい。